

医療・介護

人口10万人当たりの国民医療費は、高知県が最も高い。医師数、就業看護師数とも年々増加傾向にある。国民医療費と介護保険給付金は、今後も増え続けることが想定される。

医 療

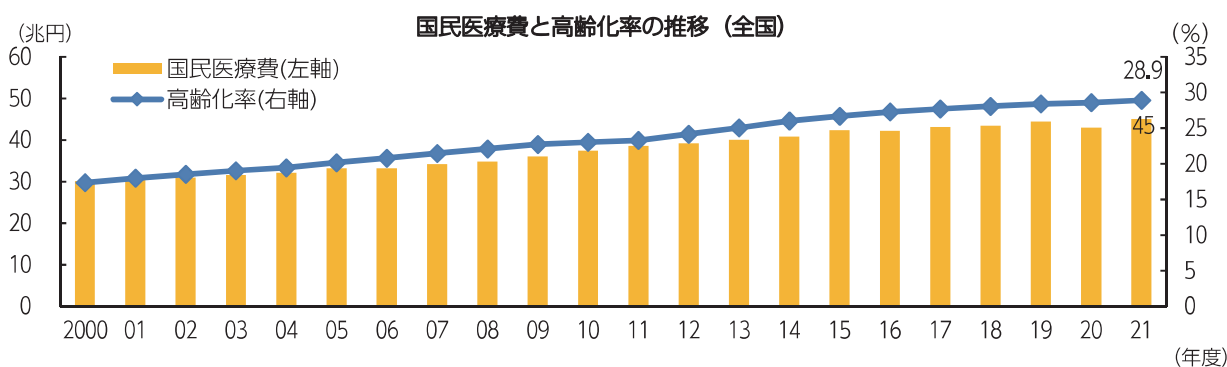
国民医療費は年々増加し、2021年度は45兆円となっている。この20年の間に1.5倍に増加しており、更なる高齢化により、今後も増え続けるとみられている。厚生労働省の試算では、2040年度には70兆円程度にまで達する見通しである【医療・介護－1】。

また、人口一人当たりの国民医療費の推移をみると、2020年の新型コロナウイルスによる医療機関受診控えの影響で低下した年を除き、増加傾向にある。高知県は高齢化が全国的にみても先行しており、人口一人当たりの国民医療費は全国で最も高い【医療・介護－2】。

高知県の病院数の推移をみると、緩やかに減少している。病院と比べ規模の小さな診療所も、近年減少傾向にある。一方、歯科診療所は2018年までは増減を繰り返してきたが、以降は減少に転じている【医療・介護－3】。

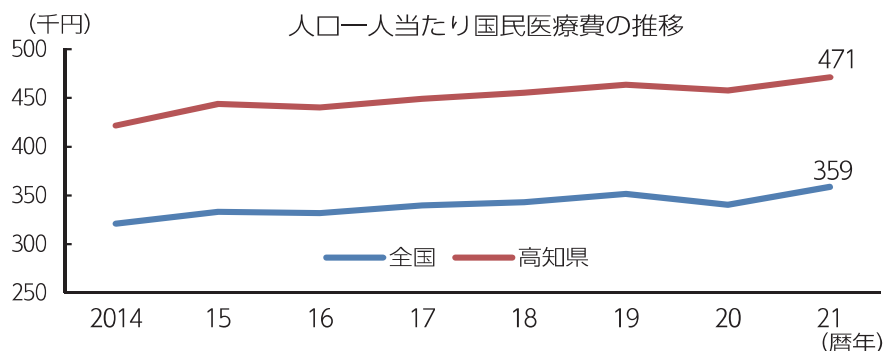
高知県の医療関係者の推移をみると、就業看護師は大きく増加している。人口10万人あたりの医療関係者数をみると、歯科医師、薬剤師は、全国とほぼ同じ水準で、医師、就業看護師・就業准看護師は多くなっている。なお、人口10万人あたりの就業看護師、就業准看護師を合計した数は全国で最も多い【医療・介護－4、5】。

【医療・介護－1】 国民医療費、高齢化率ともに年々上昇傾向が続く



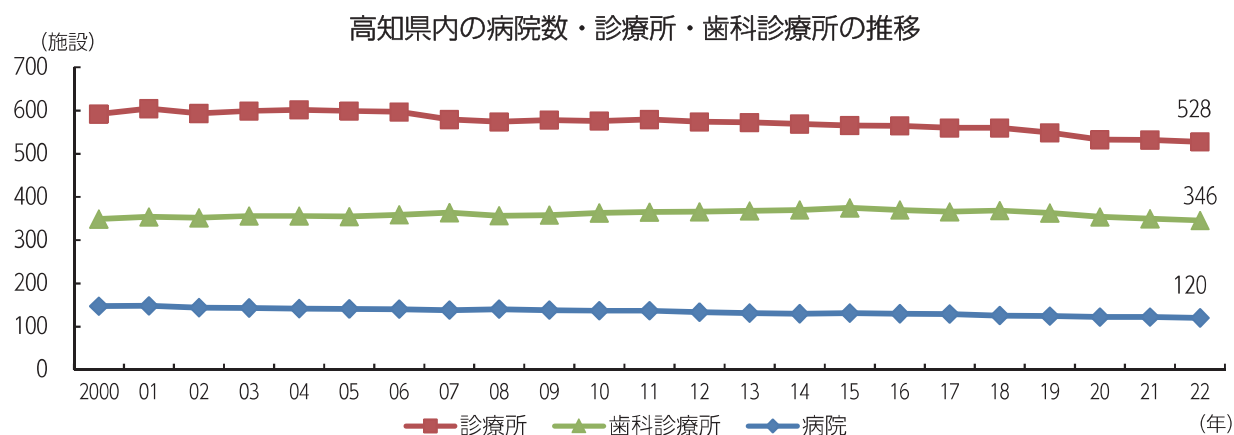
資料：厚生労働省「国民医療費の概況」、総務省「国勢調査」、「人口推計」（10月1日現在）

【医療・介護－2】 高知県は人口一人当たり国民医療費が全国で最も高い



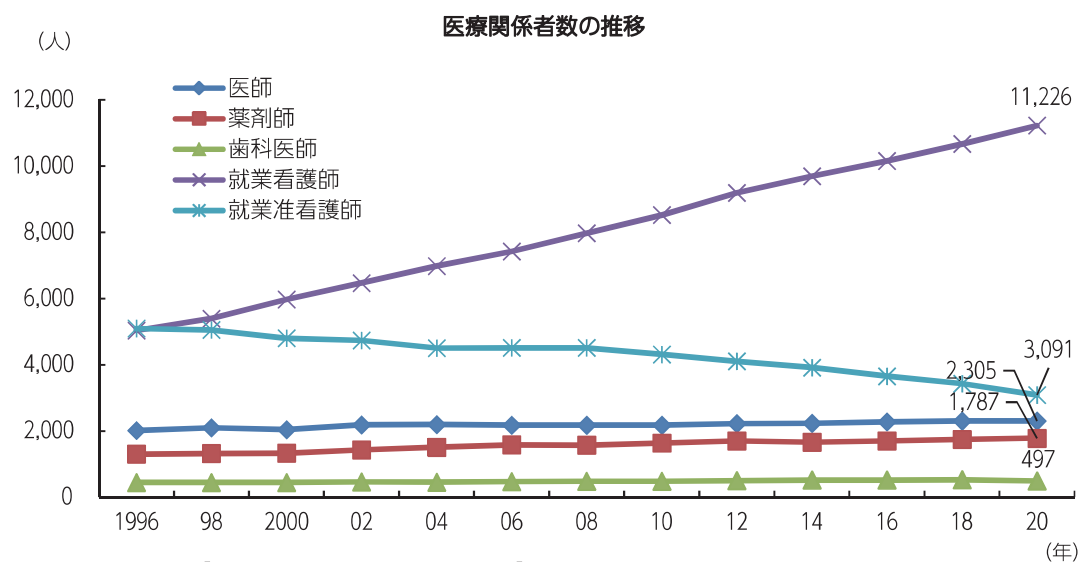
資料：厚生労働省「国民医療費の概況」

【医療・介護-3】 病院・診療所は緩やかに減少傾向が続く



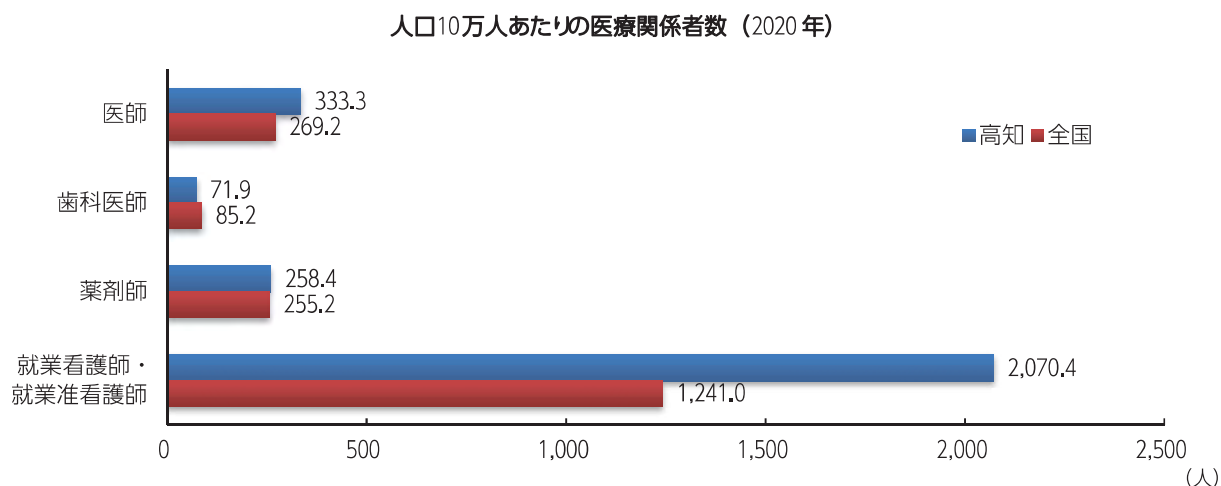
資料：厚生労働省「医療施設調査」

【医療・介護-4】 就業看護師は年々増加傾向が続く



資料：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」、「衛生行政報告例」

【医療・介護-5】 人口10万人あたりの就業看護師・就業准看護師数は全国で最も多い



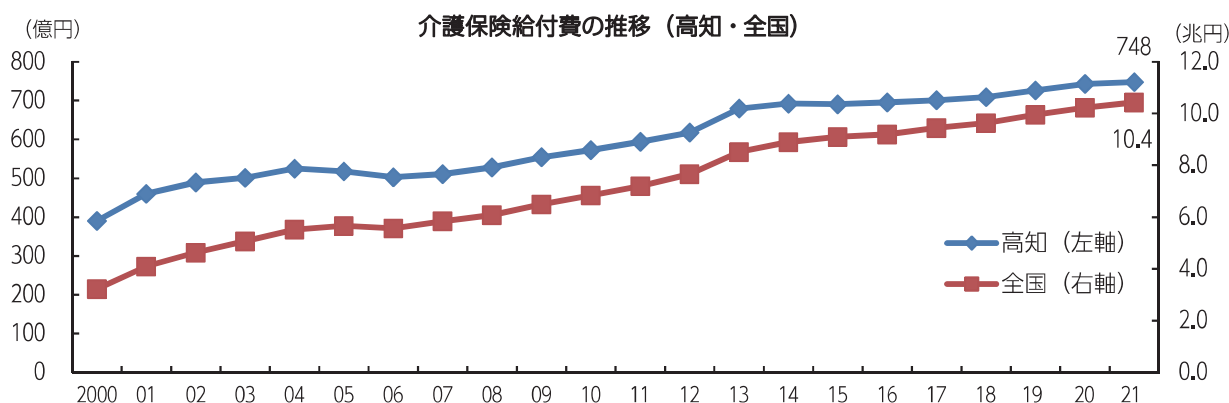
資料：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」、「衛生行政報告例」

介護

介護保険制度は2000年にスタートした。初年度に3.2兆円であった介護保険給付費は、年々増加が続き、2021年度には10.4兆円まで増加している。今後も国民医療費同様に、高齢化の進行に伴い増え続けることが予測されている【医療・介護－6】。

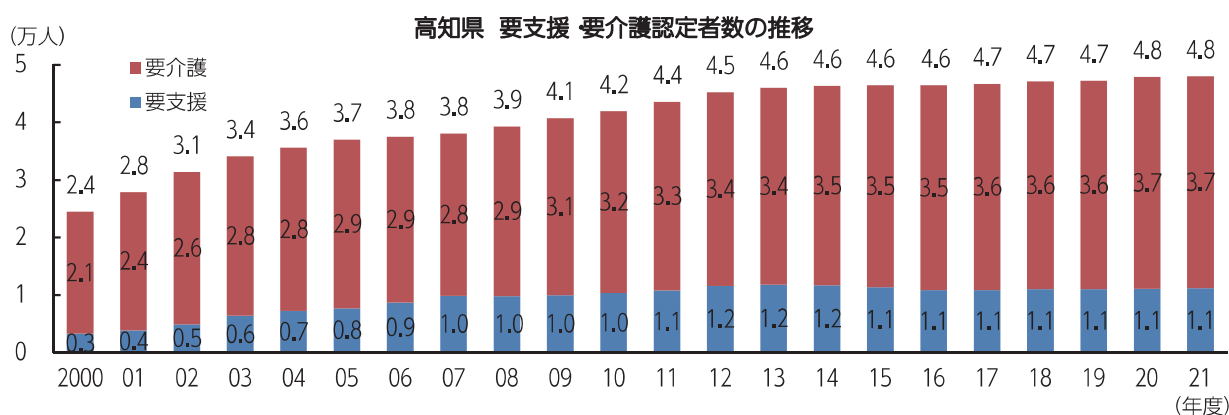
高知県においては、2021年度の介護保険給付費は748億円と2000年度の2倍弱にまで増加している。これは、要介護・要支援認定者がこの20年間で倍増していることが要因である。高齢化に伴い、要介護・要支援認定者は今後も増え続けることが予測されている【医療・介護－7】。

【医療・介護-6】 介護保険給付費は高知県・全国ともに年々増加傾向が続く



資料：厚生労働省「介護保険事業状況報告調査」

【医療・介護-7】 要支援・要介護認定者数は微増傾向



資料：厚生労働省「介護保険事業状況報告調査」

今後の展望

「2025年問題」と称されるように、2025年には「団塊の世代」が75歳以上の「後期高齢者」となり、高齢化の影響がさらに加速する。今後も医療・介護ニーズは増加するとともに、多様化、高度化していくものと思われる。医療と介護の連携により、提供するサービスの質の向上や効率化が期待される。